

2/1  
EPA

## 家族が離散 原発はいらない

無職

(福島県 70)

東京電力福島第一原発事故で故郷を追われて老人ホームにいた母が、1月16日に亡くなりました。96歳でした。突然の心不全で、家族は誰も立ち会えませんでした。

私は福島県双葉町で生まれ育ちました。2011年3月11日に東日本大震災が起きた時、実家では母、兄夫婦とその長男家族の4世代7人が暮らしていました。母たちが、避難所を経て二本松市の我が家に着いたのは3日後。母は疲れ切った声で「なんだべなあ。戦争の時だって家を追わ

れることがなかったのになあ」と言いました。

母は郡山市の仮設住宅で暮らし始めましたが、慣れないせいかトイレで右足を骨折して車いす生活に。「もう家には帰れないなあ。でも帰りたいなあ」と嘆いていました。骨折のために仮設住宅で生活できなくなり、老人ホームで生涯を閉じたのです。

4世代の家族が一緒に暮らすことは、もうありません。家族だけでなく、地域の人間関係もずたずたに断たれてしまいました。二度とこんな悲しい離散を起こさないためにも、原発は絶対いりません。